

ファミリーバドミントン ルール解説

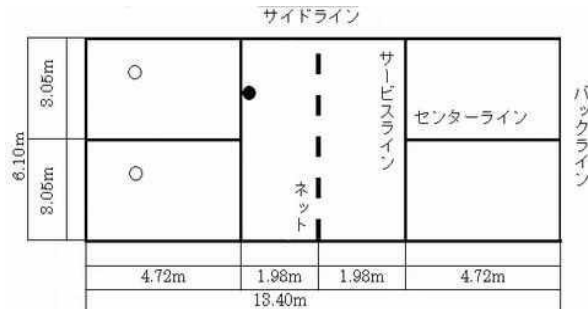
【特徴】

1 バドミントンと比べて、コート内で3名のため、初めての人でも容易にボールを打つことが出来る。

2 ラケットのシャフトが短いため、手のひらで打つ感覚でボールを打てる。

3 スポンジボールにバドミンントンの羽根をつけているため、スピードが抑えられ、初心者でもラリーが続く。また、下向けにボールを打つことが禁止されています。

【コート】バドミントンダブルスコート



【人数】

1 チームは6名以上

コート内は3名で前衛1名(●)と後衛2名(○○)

【ゲーム方法】

1 主審の合図により試合を始めます。

2 競技者は前衛(●)1名と後衛(○○)2名の3名です。

1セット目に出場した人は、2セット目は出場できません。ただし、3セット目はフリーです。

3 ジャンケンをして勝った方が「サービス」をするか「コート」をとるかを決めます。

4 2セット目と3セット目は、前のセットの勝者がサービスをします。

5 メンバーの交代は1セット2名まで。

6 得点は1セット 15 点で、2セットを先に取った方が勝です。(1対1の時は3セット目で決定)

7 14 点对 14 点になった時は2点(16 点)先取した方が勝ちになります。

8 得点はラリーポイント制です。

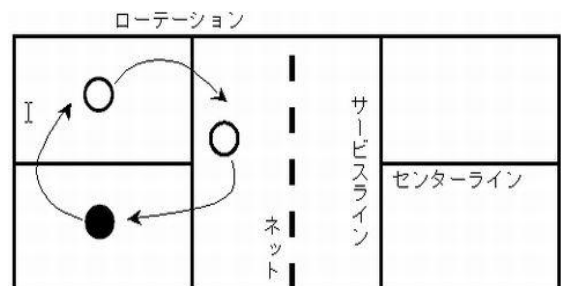
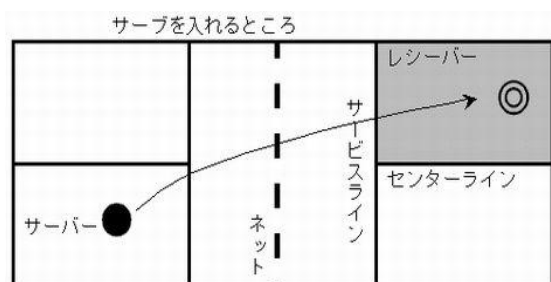
【ルール】

1 サービスは必ず下から打ちます。(ボールが腰より下)

2 サービスする人は後衛の右側の人です。

3 サーブは相手コートに向かって左側でサービスラインを超えなければなりません。

4 サーブを受ける人は後衛の右側の人だけです。



5 サーブの時、踏み出した足は床から離さないでサーブする。

- 6 ボールがネットに触れても正しい位置に入ればセーフです。
- 7 相手チームからサーブ権が移ってきた時は、時計回りに一つ位置を変えます。
[ローテーション](後衛の右側にきた人がサーブする。)
- 8 後衛の人は、サービスラインより前で打つこと(プレー)は出来ません。
- 9 前衛の人は、コート内を自由に動けます。(オールコート)
- 10 ボールは2回以内で相手コートへ返す。(ボールに触れるのは一人1回です。)
- 11 ボールは必ずネットを越えること。
- 12 打ち合っている内に(ラリー)ボールを打った瞬間、打点よりボールが下がった時はアウトになります。
- 13 チェンジコートは各セットが終わった時に行います。
ただし、3セット目は一方のチームが8点になった時に行います。

《反 則》(相手チームに1点)

- 1 フットフォルト === サーブの時、踏み出した足が床から離れた時。
- 2 サービスが腰から下で打たれなかった時。
- 3 サービスする順番が違った時。(1回目注意)
- 4 ラインクロス === サーバーがラインを踏んでサービスした時。
=== 後衛がサービスラインを超えてボールを打った時。
- 5 オーバーネット === ラケットがネットを越えて相手コート内に入った時。
- 6 タッチネット === ラケット及び体がネットに触れた時。
- 7 ドリブル === 一人で連続してボールを打った時。
- 8 ホールディング === ボールをラケットに乗せて運んだ時。
- 9 オーバータイム === ボールの返球が3回以上になった時。(返球は2回以
内)
- 10 相手コート内に体の一部が入った時。
- 11 ラケットでボールが打たれなかった時。